

令和6年度 第2回 名西高等学校 学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和6年10月28日（月）
午後2時から午後4時まで

2 場 所 名西高等学校 会議室

3 参加者

西岡委員、森根委員、小林委員、安達委員、臼井委員、大久保副会長、
竹田教頭、前田教頭、村上教頭、吉田総務課長、横田進路課長、
佐藤教務課長

4 内 容

(1) 学校長挨拶

(2) 協議 I

ア 本年度の重点取組について

大久保校長より次の項目について説明を行った。

【本年度の重点取組】

①普通科の魅力化

◇生徒の主体的な学びを進める取組（学校全体）

「自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒の育成」

I 授業改善教員研修会（年間5回）の開催

第3回研修会では、ループリックを活用した授業展開、定期テストのあり方、教科・科目で行う人権教育についてグループ協議

II 2年生グループ別探究活動

第2回中間発表会では、8つのテーマからグループごとに探究課題を設定し、研究したことを発表。「エシカル消費基礎講座」講師の方々から助言をいただいた。

III インターンシップの実施（さくら認定子ども園）

家庭基礎を履修している生徒が、アニメーションの手法を用いた絵本の読み聞かせ等を実施。生徒が企画・準備し、交流を通して幼児への理解を深めた。

IV 人権教育

・「名高人権の日」・人権HR活動・いじめ防止委員会（ハート

フル委員会)等の活動

・「名西郡人権教育研究大会」において全クラス公開授業・講演会等を実施

V 部活動

- ・陸上部：四国新人選手権大会出場
- ・相撲部：SAGA2024国民スポーツ大会出場
- ・弓道部：SAGA2024国民スポーツ大会に少年女子徳島県代表として1名出場（遠的で優勝、近的で第6位入賞）

VI 名高パトロール隊サイバーセキュリティ班

- ・徳島県高校対抗サイバーセキュリティコンテストにて優勝
- ・石井中・高浦中・神山中にて出前授業を実施

②芸術科の魅力発信

◇美術

- ・第78回徳島県美術展

日本画：奨励賞、洋画：準特選・奨励賞、彫刻：奨励賞、
デザイン：特選・奨励賞、その他入選22名

◇音楽

【箏曲】

- ・文化庁令和6年度邦楽普及拡大推進事業に応募、箏6台5年間無償貸与
- ・2024おかやま全国高校生邦楽コンクール（個人）第2位

【合唱】

- ・全日本合唱コンクール四国大会金賞

【オーケストラ】

- ・徳島県合奏コンクール金賞

◇書道

- ・書の甲子園（第33回国際高校生選抜書展）四国地区団体2年連続優勝
- ・全日本高校・大学生書道展 高等学校の部団体第10位
- ・学芸書道全国展 東京学芸大学学長賞
- ・高円宮杯日本武道館書写書道大覧覧会 参議院議長賞

◇令和6年度芸術科進学説明会を10/12に開催

- ・中学生・保護者・中学校教員 計110名参加
- ・芸術科生徒も参加し、実技講習や座談会を実施

③定時制での社会的自立への取組

◇エシカルプロジェクト

- ・野菜や藍を育て、他者と協働する態度を育成
- ・「技の館」から講師を招き、ろうけつ染めを学び、生徒それぞれデザインしたTシャツを作成

◇徳島県高等学校定時制通信制教育連盟美術作品展

- ・絵画・書道・手芸の3部門で準特選

◇徳島県高等学校定時制通信制教育連盟生徒生活体験発表大会

- ・最優秀賞受賞、全国大会へ出場

(3) 授業参観

(4) 協議Ⅱ

本年度の重点取組、授業参観について意見交換

○タブレットを使った授業を実際に見ることができて良かった。生徒は静かに落ち着いて授業を受けていると感じた。高校生になると人目を気にしたり人と比べたりするようになって難しい時期でもあるが、自分の意見を自信を持って言えるように、授業でも自主性を育てるための工夫をしてくれていると思った。家庭では何ができるかと考えた。

○クラスの人数が少ないと感じたのだが、いつもこのような人数か。

▷今年度から1年生は定員が増え、普通科は1クラス30名だが、昨年度までは25名、芸術科や選択科目の場合はさらに少人数となる。

○「学校の魅力化」について説明があったが、学校を巡ると、魅力的なところがたくさんあると感じた。美術の作品も多数飾られ、美術館を巡っているようだった。学校に入ればそれがよく伝わってくるのだが、名西高校に進学したい生徒を増やすために、この魅力をどう伝えるかを考えてみた。先日名西高校のある部活の顧問の先生が、中学生に対し、高校3年間の育成プランを作ってくれた。それを見たとき、この先生に中学校で出前授業をしてほしいと思った。先ほど学校説明会の際に美術の先生がデッサンのアドバイスをしたと説明があったが、中学校へ美術の先生が出前授業に来てくださったら、高校ではこんな勉強ができるのだと中学生に伝わるのではないかと思った。また、中高の連携も大事だと思う。名西高校は様々なボランティア活動をしているが、それを中学生と一緒にやってみるのも一つの方法ではないかと思う。さらに、名西高校の生徒は自分で考え自分の言葉で表現することを目標に掲げているとのことだったので、高校生活の楽しさや進学に向けた取組など、実際の高校生の思いを中学生に伝えてくれたら、興味を持つと思う。SNSでの発信も効果的である。インスタグラムを見ていたら、合唱部とオーケスト

ラ部の投稿があり、NHK全国学校音楽コンクール四国大会のことを書いた生徒のコメントが素晴らしかった。生徒が自分の思いを自分の言葉で表現するというのが、名西高校の魅力をアピールすることになると思った。

- タブレットの故障・回収があったと聞いたが、現在は戻ってきているのか。また、高校間での交流というのはあるのか。さくら認定こども園でのインターンシップを通じた交流や、台湾姉妹校との交流を行っているとのことだったが、高校生は自分の学校での学びしか知らない。他の高校ではこんなことを学べる、こんなことができるということを知ること、いいことだと思う。通信制の高校や、大学のように、オンラインの講座を生徒が受けて、先生がそのフォローに入るという形なども検討してはどうか。

▷タブレットについては、故障した分は代替機が来るという形で、台数は確保できている。高校間交流は、部活動では行っているが、授業ではやっていない。大学の授業を体験することは可能であると思う。

- 前回、ホームページを新しくしてほしいとお願いしたところ、すばやく対応してくれて、ありがとうございました。授業を見学させてもらったが、楽しかった。生徒の目に力があつた。一生懸命先生の話聞いていたのが印象的だった。多くの授業でアクティブラーニングがなされていたし、情報教育もしっかりできていた。また、他の学校にはないことなのだが、書道の授業で自分の書いた作品を自分の言葉で表現していた。なかなか芸術の授業でこういったことは難しいと思うが、名西高校はさすがだと思った。弓道部国体日本一、相撲部の活躍、エシカル消費についての探究活動など、よく頑張っていると感じた。

- 大学の方では就職活動がどんどん早くなっている。これまでは大学4年生からだったのが、今や3年生の夏から就職活動が始まっている。それとともに、国の方からインターンシップを5日以上している場合は、採用試験の中で評価して良いという形に変わってきている。そのため、インターンシップが非常に重要になってきている。名西高校でもさくら認定こども園でのインターンシップを実施したとのことだったが、高校でもインターンシップをどんどんやって、インターンシップに行く垣根をなくしていくと、大学でも行くようになると思う。県外の大学では1年生からインターンシップに行っているようだが、3年生からの5日間が評価として加味されるとのことだ。このように、インターンシップを学校の魅力化につなげるのもよいのではないかと思った。

